

平成 30 年度 事業報告

法人全体

平成 30 年度、中道におきましては、施設全体での稼働率は 85%。

デイサービスでの稼働率増加による影響もあり 5%増の結果となりました。

千鳥山荘におきましては、施設全体での稼働率は 89%。

昨年度に比べショートステイの稼働率減少がありましたが、デイサービス・小規模多機能・居宅介護の稼働率増加があり、昨年度と同程度の稼働率を維持できました。

西神春日台におきましては、施設全体での稼働率は 89%。

訪問介護の稼働率低下がありましたが、デイサービスにて年間を通し高稼働率を維持できた結果、昨年と同程度の結果となりました。

中道

特別養護老人ホーム

平成 30 年度は 94%（前年比 3%増）の稼働率となりました。

上半期は安定した稼働率を維持できていましたが、下半期にかけて長期入院をされた方や医療病床への転院された方が続き、新規入所者への対応が遅れた影響により稼働率を下げる結果となりました。

事業計画としましては、施設内会議・研修 88 件実施、施設外研修 91 件参加し、実習生は延 14 名受け入れ、ボランティアの方々は 286 名受け入れております。

短期入所生活介護

平成 30 年度は 94%（前年比同様）の稼働率となりました。

長期利用をされていた方の特養への移行に伴い、一時稼働率を下げるが続きましたが、千鳥山荘ショートステイとの連携を行っていき、稼働率確保に努めていきました。

通所介護

平成 30 年度の稼働率は 78%（前年比 9%増）となりました。

平成 30 年 4 月より柔道整復師による機能訓練指導員を配置し、機能訓練のプログラムを強化し加算取得に繋がっています。その影響もあり、利用者数の増加にもつながっていると考えます。引き続き、居宅介護支援事業所等への営業活動を行っていき、定員 35 名から 40 名への変更を今後行う予定となっております。

訪問介護

下半期にかけて、入院されたため、身体状況の変化が見られ、訪問介護以外のサービスを利用された方や、ご逝去された方が続き、稼働率の減少が見られております。他の事業所からのご依頼もいただいている為、稼働率の増加につながると考えています。

居宅介護支援

平成 31 年 1 月より 1 名のケアマネジャーを増員し、プラン数の増加につながっています。年間を通して、安定した稼働率を維持できております。地域包括支援センターへの異動となりプラン件数の減少が見られております。9 月以降職員の増員に伴い、プラン数も増加し、半期は安定した稼働率を維持できております。

地域包括支援センター

介護や見守りなど、地域の高齢者に関する総合相談窓口として、また、近隣住民や居宅介護支援事業所から高齢者虐待の疑いの相談対応として、兵庫区保健センターと連携してお

ります。

地域における課題について、地域の声や相談受付の分類・データに基づいて分析。そして、民生委員や自治会等の地域支援団体、さらには医療関係者・介護事業所等を交え、地域課題について意識共有、話し合いを行う「地域ケア会議」を開催しております。

また、民児協主催をサポートする形で、「認知症高齢者等声かけ訓練」を実施。地域住民の参加も多くあり、認知症の方に対する声かけ方法や、対応を学ぶ機会を持つことができました。

地域支え合い活動推進事業

地域支援者の高齢化の影響による、友愛訪問ボランティアグループの解散も重なり、次の世代にも、地域見守りに触れていただこうと考え、地域で開かれている、ふれあい喫茶に児童とその保護者を招き、世代間交流を開催しました。

地域見守りの必要性を若い世代に周知できるよう現在も取り組みを行っております。また、趣味活動、集まりの場所を求める地域からの声に対して、「囲碁・将棋サークル」も新たに開催。今後は、地域主体で自主的に活動が行えるよう、後方支援の立場で活動しております。

介護機能強化モデル事業（LSA）

ルゼフィール中道住宅の住民の方々に対して、訪問活動や電話による安否確認、また生活相談を行いながら、必要時は行政や担当ケアマネジャー、地域包括支援センター等、各関係機関と連携し、安心して暮らせるための支援を行いました。

住民の高齢化に伴い、各階で住民同士の見守り活動を開始しました。互いに助け合い、見守る。困った時にはLSAに相談し、あんしんすこやかセンターへ引継ぎ、介護の申請を行い、介護保険でのサービス導入へと繋いでおります。

毎月第1・第3木曜日には茶話会を開催し、住民間でのコミュニケーションを図る事を目的とし、住民とLSAが協力し行っております。最近では、地域住人の参加も見られるようになりました。

平成 30 年度 事業報告

千鳥山荘

特別養護老人ホーム

特別養護老人ホームでは、既存の入所者の重度化や新規入所者の短期間での退所が多くあり、前年度と比較し、入院者の延べ人数は年間 31 人（前年度比 9 人増）、入院延べ日数では、年間 361 日（前年度比 83 日増）と入院者の延べ人数、入院延べ日数共に増加しました。年間平均稼働率は 95% となり前年度と比較し 2% 低下する結果となりました。

施設行事等に関しましては、地域の方々とのふれあいや関係の構築を大切にしながら地域のイベント等にも参加すると共に、職員間の連携の強化やスキルアップ、サービスの向上を目的とし施設内会議・研修は 62 件実施、施設外会議・研修には 103 件参加しました。また、ボランティアの方々には約 133 名受け入れ、実習生に関しましては 51 名の受け入れとなりました。

短期入所生活介護

短期入所生活介護では、各居宅介護支援事業所や医療機関とのスムーズな連携を図る事ができました。積極的な新規利用者の獲得や緊急的な利用依頼に対する受け入れ等を行ない稼働率、利用者数共に昨年度と同様安定した稼働状況を維持することができました。

通所介護

通所介護では近隣のあんしんすこやかセンターや居宅介護支援事業との関係構築を図りながら主に施設近くの地域の方々にご利用頂くことができました。しかし季節毎の気候変化の影響等による利用者様の体調不良や入院等の急な欠席による利用者数減少への迅速な対応が不十分な面があり月毎の稼働状況の変動が大きくなってしまいう結果となりました。

小規模多機能型居宅介護

小規模多機能型居宅介護では、稼働率は前年度と比較し 6% 増加、通い、訪問、泊まり全において前年度の利用者数より大幅に増加致しました。通い、訪問、泊まりそれぞれの適切なサービス計画の立案と実施により入院者や利用休止者が減少し安定した登録者数と稼働状況を維持することができました。

居宅介護支援

居宅介護支援では、ご利用者様の心身の状況や生活状況、環境等を勘案しご利用者様やご家族様の意向を尊重した居宅サービス計画書を作成することで住み慣れた地域、居宅での生活の継続をサポートすることができました。公正中立、法令順守を確保し、あんしんすこやかセンターや近隣各サービス事業所の協力を得ながらスムーズに新規利用者を獲得することができました。

特別養護老人ホーム

平成 30 年度は、開設 8 年目で開設当初より入居されていた利用者が体調を崩される事等の背景もあり、年間で 40 名近くの入退所がありました。前年度と比較すると入退所数は減少傾向にあります。退去後の部屋を次の方へスムーズに受け入れることで、年間の稼働率は 94% の稼働となりました。

施設行事等に関しましては、昨年度同様に青陽須磨特別支援学校とまた今年度より区内に新設された西神戸高等特別支援学校と関わる機会を多く持つ事が出来ました。また、地域でのお祭り行事や榎野台小学校福祉体験学習へ参加させて頂く事で、地域の方々との交流が深まった内容となりました。施設内外の研修は 193 件行い、実習生の受け入れは延べ 99 名となっています。ボランティア活動に関しては、年間で延べ 923 名もの皆様に活動をして頂いています。

ケアハウス

平成 30 年度は、本館では年間 96%、華邸では 97% の稼働率となりました。入院者も少なく、年間を通してほぼ満床状態をキープし安定した稼働となっております。入居に関しては、地域の居宅介護支援事業所や近隣病院との連携を図り入居希望者のスムーズな受け入れができました。また本館、華邸の見学や申し込み状況等の情報交換を行い、本館、華邸共に高い稼働率を維持することができました。

短期入所生活介護

平成 30 年度は、年間で 97% の稼働率となりました。入所待ちロングショート of の積極的な受け入れや他事業所との連携強化にて、前年度と比べ稼働率が上昇する結果となりました。また、特別養護老人ホーム入院中の空床利用も継続的に行う事で、地域住民の方々に開放することでショートステイの役割を果たす事ができました。

通所介護

平成 30 年度は、新規利用者を多く獲得することができており年間平均 106% の稼働率となりました。また、居宅介護支援センターや地域包括支援センターと連携を密に行う事で地域の方へ安心してご利用して頂く事ができました。

訪問介護

平成 30 年度は、予定していた利用者の入院等によるキャンセルもあり年間平均 60% の稼働率となりました。また、居宅介護支援事業所との関係性は良好なもの新規獲得においても前年度より減少傾向となりました。サービス・質の向上につきましては、個々の利用者ニーズに対応ができており、訪問介護としての役割を担うことができました。

居宅介護支援

平成 30 年度前半は、ケアマネ入退職に伴う人員配置により近隣居宅介護や同区内あんしんすこやかセンターに迷惑をかける事もありましたが、定期的に新規獲得ができました。各あんしんすこやかセンターとの良好な関係性は維持出来ており、迅速且つ的確に困難ケースの対応を行い、居宅介護支援としての一番の目標である地域高齢者やご家族に寄り添った、より良い支援を目指した運営ができています。